▲6頭の盲導犬候補の子犬を三十数人の受刑者が育てる。

▲最初のしつけはおしっことうんち。うまくできたらほめる！

▲人の社会にならすため、週末はボランティア家庭へ。

▲1歳で日本盲導犬協会に戻り、本格的な訓練を行う。

受刑者が育てる盲導犬パピー

盲導犬の〝候補〟を育てるには、半年～1年の訓練が必要だという。官民協働運営の刑務所・島根あさひ社会復帰促進センターは日本盲導犬協会と協力して、10か月間の訓練を担当。盲導犬候補のパピー（子犬）を育てている。

ダウン（伏せ）やスティ（待て）など基本的なしつけを覚えさせ、トイレの時は「ワンツーワンツー」と声をかけて促す。盲導犬になった時、ユーザーを無視して排泄に行かないよう、号令で覚えさせるんだよ。

昨年までに同センターで育った犬のうち12頭が盲導犬になった。受刑者も犬の世話を通じて、社会に貢献する喜びや達成感を抱くそうだよ。

島根あさひ社会復帰促進センター（浜田市）
「盲導犬パピー育成プロジェクト」を行う、日本初の刑務所。2008年から52頭を日本盲導犬協会から受け入れてきた。

盲導犬　交差点や段差で止まり、障害物はよけるなど、目が不自由な人を安全に誘導する力があると認められた犬。訓練しても3～4割しかなれない。

聴導犬　チャイムや着信音、警報器の音、窓口での呼び出しなど、耳の不自由な人にタッチなどをして知らせ、生活をサポートする犬。訓練すれば、飼っている犬や小型犬でもなれるよ。

介助犬　からだの不自由な人のために、ドアを開け閉めしたり、落とした物を拾ったり、日常生活を助ける。もしもの時には人を呼びに行って、緊急ボタンを押すこともする。

がれきの山を駆ける J。全身の筋肉、頭も鼻も使う、散歩じゃできない訓練の積み重ねが大事なんだ。ここに紹介する以外にも訓練はいろいろ。

災害救助犬の訓練 〝短時間集中〟を毎日！

がれき捜索　訓練場に再現された災害現場のがれきの山から、人を捜す訓練。まず風下に立ち、においをキャッチしてから捜し始めた。

遠隔操作　トレーナーから離れた所でも、手の動きや声に従って動く訓練。災害現場では安全が第一。人の指示通り動くことが犬を守ることになる。

アラートボックス　3つの箱のうち1つに人が隠れ、嗅覚で見つけ出す捜索訓練。見つけた時は、J も中の人も大喜び！

高所訓練　高さ3㍍ほどの足場の悪いはしごを駆け上がる龍馬。

服従訓練　トレーナーの左につき、速度を合わせて歩いたり走ったり。

日本レスキュー協会には今、4頭の災害救助犬と4頭の訓練犬がいる。黒のラブラドルレトリバーのJは、生後3か月で協会へきて、災害救助犬の素質を見いだされて育った5歳のオス。昨年は九州北部豪雨災害に出動した。

毎日の訓練は、高所訓練や遠隔操作などを15分ほど集中して行う。犬にとって、歩く速度を人に合わせたり、立ったまま「待て」でいたりするのは大変なこと。指示通りできたらたっぷりほめて、訓練は楽しい！と思わせることが、いざという時の力になるんだ。

危険と向き合い命を落とすことも

2015年11月18日、フランスのパリで同時多発テロを起こした容疑者の銃で、爆発物探知犬のディーゼルが命を落とした。フランス警察はツイッターに「ディーゼルはテロリストに殺された」と投稿し、瞬く間に世界中に伝わった。ロシアのプーチン大統領は、ディーゼルと同じシェパードの子犬を贈ると発表。ロシア民話の勇者の名前「ドブルイニャ」と名づけられたよ。

犬の嗅覚は、警察の捜査現場、地雷や不発弾が埋まった戦場での除去作業でも役立てられている。命の危険をともなう仕事を引き受けている犬のことも知っておこう。

爆発物探知犬　おもに火薬のにおいを嗅ぎ分けて、爆発物を探す。国内外で爆発物にかかわる事件やテロが増えている今、とても注目されている。日本ではまだ少ない。

警察犬　遺留品を判別したり、足跡を追ったり、鋭い嗅覚をつかって犯人や行方不明者の捜索をする。警察で育成された犬と、民間で育てられ、審査に合格した嘱託警察犬がいる。

フランス警察のツイッターより。りりしいディーゼルの写真を投稿し、特殊部隊の作戦に必要だったことを伝え、これまでの功績をたたえた。

読んでみよう

戌年を迎え、読書はじめも「犬」の本でどう？普通のペットとは違う生き方をしている犬と人との関係を描いた、感動実話を3冊紹介する。

「いやし犬 まるこ」著／輔老心　殺処分を免れたまるこが、老人ホームのカフェの看板犬になった！

「命を救われた捨て犬 夢之丞」著／今西乃子　捨て犬から災害救助犬となって、奮闘する姿を描く。

「〈刑務所〉で盲導犬を育てる」著／大塚敦子　島根あさひ社会復帰促進センターでのパピー育成を追う。

▲12月、熊本地震の被災地にある福祉施設7か所を訪問した。先輩ドッグたちとおすわり！

▲協会の「セラピードッグハウス」にて。

セラピードッグ見習い ガンバレ！希ちゃん

2016年度に全国の保健所などに連れて行かれた犬・猫はおよそ11万匹（環境省調べ）。うち1万数千匹は飼い主が直接持ち込んだもの。1年間で6万匹近くが殺処分された。そんな不幸をなくそうと、日本レスキュー協会では、保護した犬に飼い主を見つけたり、災害救助犬やセラピードッグに育てたりしている。保護された希は昨年、セラピードッグ見習いとしてデビュー。怖がりだけれど、初対面の人とも触れ合えるようになったんだよ。

みんなスゴイわん…

ガンバルわん！

「セラピードッグハウス～心と心～」
日本レスキュー協会のセラピードッグたちと触れ合える（有料）。開催日はＨＰで確認を。

写真協力／日本レスキュー協会、島根あさひ社会復帰促進センター　デザイン／タナカデザイン